

コロナ禍におけるアートの状況と今後の展望

マレーシア
チュン・カム・カウ

2020年初頭から猛威をふるっている新型コロナウイルスにより、私たちの生活の規範は失われてしまいました。生き残るためには、あらゆる職業の人々が、パンデミックの状況に適應するための新しい、もしくは代わりの方法を見つける必要があります。マレーシアも例外ではありません。

現在の状況 - 政府は、新型コロナウイルスのパンデミックが勃発して以来、パンデミックの異なる期間ごとの状況に応じ、ウイルスと戦い抑制するための様々な措置と戦略をもって、程度の異なる活動制限令(MCO - ロックダウンのようなもの)を課してきました。これには、強化された活動制限令、条件付き活動制限令、回復のための活動制限令などがあります。しかし、ウイルスは現在のレベルにまで蔓延し続けました。これまでのところ、我が国の政府が講じた措置では、ウイルスの封じ込めに成功していません。マレーシアが、この世界的パンデミックの最悪の被害国である現状を見ると心が痛みます。国内で一日に確認された新型コロナウイルス感染者数は、7月13日には11,079人に急増し、その後も日に日に感染者数の着実な増加が続いています。そして7月23日には感染者数はさらに15,573人に跳ね上がり、続いて7月24日は15,902人、7月25日は17,045人、7月26日は14,516人、7月27日は16,117人、7月28日は17,405人(この時点での最高)となりました。マレーシアの保健省は、事態は今後まだ悪化すると国民に警告しています!

我が国の医療システムは、ICU、酸素供給設備、医療ベッド等の緊急需要に対応においてかつてない重圧に直面しており、まして医療スタッフや第一線で働く人たちのオーバーワークの重圧は言うに及びません。コロナウイルスの突然変異種が広く蔓延しているため、流行曲線の急上昇を横ばいにし、短期間でパンデミックを克服するのは非常に困難です。政府は今年2月にワクチン接種プログラムを開始しましたが、ワクチン調達の厳しい交渉や、富裕国によるワクチンの独占と備蓄によるワクチン供給の遅れなど、予期せぬ問題が多発したため、進行状況は遅々としています。

マレーシアでのワクチン接種の実施は4月からスピードアップされ、幸い現在は早いペースで進行中です。星洲日報によれば、7月 26日に、全国で合計52万1,923回の接種が一日で行なわれました。結果として、1,213万1,329人が第一回目の接種を完了しましたが(37.1%)、二回目の接種を完了したのはマレーシアの総人口の17.5%である570万8,147人です。我が国は、集団免疫の実現のため、今年の9月か10月までに、目標である全人口の80%の接種を達成することが決定されています。

我が国は、世界中の他の多くの国々と同様、2020年3月以来、さまざまな程度のMCOの下で標準作業手順(SOP)を厳密に遵守する必要があります。SOPは、国民が従うべき詳細な規則と法令から成ります。ここですべての詳細を述べることはできませんが、概して言えば、MCOの間は感染連鎖を断ち切るために、国民は自由な外出は許されず自宅にいななければならない。さまざまな段階の MCOにおけるSOPに従い、すべての店舗、ショッピングモール、娯楽店、レストラン、ホテル、学校等は、完全または部分的な閉鎖の必要があり、例外は、生活必需品、食品や医療品の店舗、薬局等です。EMCO(強化されたMCO)期間中は、各家庭ごとに一人だけが、必需品かテイクアウト食品の購入のために半径10km以内の外出を許可されます。社交的集会、訪問、会議、地区をまたぐ移動は許可されませんが、これは条件のほんの一部です。SOPは一定の標準手順ではなく、たえず見直されており、昨年初め以来必要とされている義務として、異なる期間の異なる程度のMCO下の異なる状況に合わせた変更が行われました。

●アートの状況

美術館やアートギャラリーにも例外はありません。MCOまたはEMCOの下ではすべての国民がギャラリーや美術館の訪問を許可されなかったため、昨年の3月か4月以来、展示会は一つも開催されていません。国立視覚芸術館やその他の国立美術館は、異なるMCO下でのSOPに従って、一時的に閉鎖されたり一般公開されたりしました。有名なギャラリー・ベトロナスを含む多数のアートセンターやアートギャラリーは、永久的な閉館を余儀なくされました。生き残った民間のアートギャラリーは、MCOが緩和された期間に、関係者の予約訪問に対してのみオープンできました。パンデミックSOPの下では対面での取引や価格交渉は不可能なため、アート作品の販売は主に屋内でオンラインを通じて行なわれました。代替措置として、多くのアートギャラリーは、ビジネスを続けるために、仮想訪問や閲覧ができるオンライン展示会を開催しました。国立視覚芸術館は、アーティストが美術展を開催したり、その他の関連アートプロジェクトを行うのを助けるために「Tabung Bantuan Seni」財政援助基金を設定していますが、申請と承認の対象となっています。

The art situation under the Covid-19 pandemic period and its future outlook

Malaysia
Dr. Choong Kam Kow(鍾金鈞 博士)

The outbreak of Covid-19 since early 2020 has broken the norm of our life. In order to survive, people in all walks of life have to find new or alternative ways to adapt with the pandemic situations. There is no exception for Malaysia.

The current scenario - Different degrees of Movement Control Order (MCO -- something like lockdown) such as Enhanced MCO, Conditional MCO, Recovery MCO have been imposed according to the pandemic situations at different periods of time with various measures and strategies to combat and curb the virus by the government ever since the outbreak of the Covid -19 pandemic but the virus continued to spread to the current level. The measures taken by our government have not been able to contain the virus thus far.

It is heart breaking to see Malaysia has become the worst hit country by this worldwide pandemic. Our daily confirmed figures of Covid -19 pandemic cases have surged to 11,079 on July 13 and followed by steady increase of cases daily. And on July 23 the confirmed cases have further surged to 15573 followed by July 24: 15902, July 25: 17045, July 26 : 14516, July 27: 16117 and July 28 :17405 (the highest so far) . The nation is cautioned by the Ministry of Health that the worse is yet to come!

Our medical system is facing an unprecedented pressure in coping with the acute demand of ICU units, oxygen supply units and bed units, etc let alone the overworking pressure of the medical staffs and front - liners. Due to the wide spread of mutated variants of the Corona virus, it is very difficult to flatten the spike of the pandemic curve and overcome the pandemic in a short period of time.

As an alternative measure to combat the Covid-19 pandemic is to carry out massive vaccination. The government started the vaccination program in February this year, but with a slow pace due to numerous unforeseen problems such as tough negotiation of vaccine procurements and the delay supply of vaccines due the monopoly and stockpile of vaccines by the rich nations.

The vaccination operation in Malaysia has been speeded up since April and luckily it is now in high- speed track. On July 26, a total of 521,923 doses were administered nationwide on a single day as reported by the Sin Chew Daily (星洲日報). As such, 12,131,329 individuals have completed the first dose (37.1%) whereas 5,708,147 individuals completed their second jabs amounting to 17.5% of the total population of Malaysia. We are determined to achieve by September or October this year the targeted 80% of inoculating the whole population in order to realize the herd immunity.

We, like many other countries the world over, have to adhere strictly the Standard Operation Procedures (SOP) under different degrees of MCOs since March 2020. The SOPs consist of detail rules and orders for residents to follow. It is not possible to give all the details here. Generally speaking, during MCOs residents are not allowed to go out freely but to stay home to help breaking the infection chain. All kinds of shops, shopping complexes, entertainment outlets, restaurant, hotels, schools, etc. etc. must cease to operate either completely or partially except those dealing with daily essentials, food and medical supplies, pharmacy outlets, etc. according to SOP at different stage of MCO. During EMCO only one person per household is allowed to go out to buy essential supplies or takeaway food within the radius of 10 km. No social gatherings, visits, meetings, crossing districts are allowed, just to mention a few conditions here. The SOP is not a fixed standard procedure as it has been under constant reviews and alterations took place to suit different situations under different degrees of MCO during different periods of time as mandatory required since early last year.

●The art situation

There is no exceptions to art museums and art galleries. No exhibitions have been held since March or April last year as there were no public members allowed to visit galleries and museums under the MCO or EMCO. The National Art Gallery and other state art galleries were temporarily closed or open to the public according to the SOP under different MCO's ruling. Numerous art centers and art galleries including the famed Galeri Petronas were forced to close for good. Those surviving private art galleries managed to stay open for interested parties to visit by appointments only during the relaxed MCO. Sales of art works were mostly managed indoor through on line communications as face-to-face dealing and price negotiation were not possible under the pandemic SOP. As alternative measures, many art galleries managed to hold online exhibitions for virtual visits or viewing in order to keep their business going.

Under such circumstances, there were no exceptions on the hardship faced by full-time artists in staging or participating shows hence allowed very limited or zero opportunity to sell their works which inevitably landing them in adverse financial dilemma. Although the National Art Gallery has set up the 'Tabung Bantuan Seni' financial assistance fund to help artists to hold art exhibitions or carry out other related art projects, it is subject to application and approval.

MCO期間中は、アーティストが個展やグループ展を開催する機会が非常に限られているため、資金を最大限に活用することはできません。このような状況下では、フルタイムのアーティストは展示会の開催や参加にあたって例外なく苦難に直面し、作品を販売する機会が非常に限られるかまたは全くなく、必然的に財政上の悪いジレンマに陥ります。国立視覚芸術館が、アーティストのために、アート展の開催やその他の関連アート企画の実施を支援する特定資金(アート救援基金)を設定しているものの、それには申請と承認が必要です。MCOの期間中は、個人またはグループでの展示会を開催する機会は非常に限られているため、基金を十分に活用することができません。多くのアーティストは、新型コロナウイルスのパンデミックの発生以来、無収入に直面しています。マレーシアには、個人のアートスタジオで子供たちにアートを教えて生活している収入の少ないアーティストが数多くいます。MCO下では教育センターやスタジオは営業できなかつたため、彼らは収入が得られませんでした。彼らの多くは生き残るために雑用仕事を余儀なくされました。この状況は間違いなく彼らの創造的な生産性の深刻な妨げとなっています。

一般の人々、またアートサークルでさえ、オンライン展示会を仮想訪問することに積極的ではありません。私たちが皆、何世紀にもわたって知っているように、美術館やギャラリーを訪れて現実の時間と空間の中でアート作品を見ることは、喜ばしい鑑賞かつ楽しい体験であり、それをいきなり仮想鑑賞に切り替えることはできません。

パンデミック発生までのここ数年、クアラルンプールでは、毎年良い成果を挙げていたアートオークションが1ダース以上ありましたが、新型コロナウイルス流行期間中に減少し、私の見たところ、現在は3、4のオンラインオークションがあるのみです。公共および民間のギャラリーや美術館での単独またはグループによる精力的な国内の展示会に見られた芸術活動の活気は、大いに低下しています。様々なMCO下において、美術館やギャラリーは、完全であろうと部分的であろうと営業を許可されず、予定されていたすべてのプログラムは無期限の延期または中止となりました。公共の美術館やギャラリーは、芸術鑑賞と人生の啓発に対する公共のニーズに応える役割を果たすことができませんでした。多くのアートギャラリーや美術館は、オンラインチャンネルやソーシャルメディアの利点を生かして、美術展を促進することはできました。例えば、国立視覚芸術館は、仮想ギャラリースペースでウォークスルー視聴ができる3Dオンライン視聴チャンネルを一般公開することができました。訪問者数は綿密に監視されており、その効果を測定するために一般の反応がじきに調査される予定です。

●今後の展望

すべてがうまくいけば、私たちは、人類とパンデミック(願わくばより小規模なエピソード)が共存する集団免疫時代に入るとでしょう。ゆえに、美術館やアートギャラリーが、新たな規範の下で公衆にサービスを提供するため有意義かつ効果的に機能する方法は、依然として大きな課題です。私は現時点では、国立視覚芸術館が新しい規範に直面するための戦略に関する情報を有していませんが、新しい計画が進行中であることは確信しています。同様に、民間ギャラリー部門も、過去18ヶ月間に蓄積された経験に基づき、ポストパンデミック時代に適応して活用するための慎重な計画を開始すべきです。私は、現役のベテランアーティストかつ元美術教育者として、集団免疫の時代にあっては、公共および民間の美術館やギャラリーが、現実の時間と空間における美術の展示会や活動を復興させる努力をしつつ、訪問者の健康と安全のための新しいSOPを慎重に順守することが非常に重要だと思います。同時に、視覚芸術活動を強化するためにオンラインの設備、チャンネル、ソーシャルメディアをプラットフォームとして活用し、人々が美術館に来ない或いは来れない時に、地域社会の視覚芸術を普及させるために手を差し伸べる戦略として、美術館が人々にアートを届けるのです。現実の空間での展示会とオンラインの展示会は、異なる年齢層、人種、信仰、文化的背景を持つ人々の間で、芸術に対するさらなる認識、関心、理解、愛を生み出すために、協力して開催することができます。デジタル時代においては、アートに関する販促資料や出版物は、従来の印刷物に代わってデジタル形式の物が増えることが予測されます。

●今後のAIAE(アジア国際美術展)への提案

現時点では、今後の正規のAIAEの合間にオンライン展示会も開催されることを提案したいと思います。それによってAIAEの継続性を維持し、2015年から2020年のように加盟国から開催の意志表明がない期間を埋められます。私たちは、(2015年-2020年を除き)1985年から継続して順調に開催されているAIAEを大切にしなければなりません。それはアジアの主要なアートイベントとなっているので、私たちはそのために戦い続ける必要があります。2015年から2020年のように開催しない期間があることは、非常に残念な損失であり、おそらく屈辱でもあります。AIAEを毎年か少なくとも隔年で継続させるための努力が必要です。

私がここで提案したいもう一点は、今後は、多額の印刷代金と送料がかかるので、参加国から開催国へ国のカタログ500部を供給する必要はないということです。代わりに、参加国は、国の各カタログのデジタルコピーを開催国に送信するだけで済みます。そして開催国は、全参加国のデジタルコピーを単一のファイルに結合してUSBメモリやCDに保存できます。サイズが大きすぎる場合は、すべての国のデジタルカタログをカスタムデザインのケースやボックス(記念品を入れる箱のようなもの)にまとめて入れ、展示会場で販売したり無料配布したりできます。開催国は、すべての参加国のデジタルカタログを含むメインUSBメモリまたはボックスを、展示会の最後に参加国に配布する必要があるだけです。これは、参加国から開催国に500部を送付し、開催国から各参加国に紙のカタログの重いセットを何ダースも送付するのに比べれば、間違いなくずっと少ない費用ですみます。加盟国からのコメントやご提案をお待ちしています。

During the MCO there is very limited opportunity for artists to hold solo or group exhibitions, hence cannot make full use of the fund. Many artists have been facing zero income since the outbreak of the Covid - 19 pandemic. In Malaysia there are many upcoming artists who make their livings by offering art tuitions to young children in their private art studios. Under the MCO no tuition centers or studios were allowed to operate hence no income for them. Many of them were forced to take up odd jobs in order to survive. This scenario undoubtedly has seriously hindered their creative productivity. As for the general public and even the art circle, there is a lack of enthusiasm for virtual visit to online exhibitions. We all know for centuries, visit to art museums or galleries to view art works in real time and space have been a delightful appreciation and enjoyable experience. Such appreciation experience cannot be replaced by virtual viewing overnight.

In recent years, Kuala Lumpur saw a dozen odd art auctions with good results each year prior to the outbreak of pandemic but has since reduced to just three or four online auctions during the Covid - 19 period as I have observed. The vibrancy of art activities shown through busy domestic solos and group shows in public and private galleries and museums has been subsided tremendously. Under the various MCOs, museums and galleries were not allowed to operate either completely or partially forcing all the scheduled programs to be postponed indefinitely or cancelled for good. Public art museums and galleries were unable to play their roles of serving the public needs for art appreciation and life enlightenment. Many art galleries and museums did managed to take advantages of the online channels and social media to promote their art exhibitions. Our National Art gallery for example did managed to create a 3D online viewing channel for public to enter the virtual gallery space for walk- through viewing. The viewing frequency of visits is being monitored closely and the public response will be reviewed soon to determine its effectiveness.

●The future outlook

If everything goes well we will enter the herd immunity era where Man and pandemic (or hopefully epidemic) will be in co-existence. Therefore how can the art museums and art galleries function meaningfully and effectively to serve the public under the new norm remained a great challenge. At this moment I have no information on how will our National Art Gallery strategize to face the new norm but I do have confidence that new plans are in the pipeline. Likewise, the private gallery sectors should also start to, based on their cumulated experiences from the past 18 months, plan carefully to adapt and take advantage of the post pandemic era.

As a practicing veteran artist and retired art education academics, I think it is very important that under the era of herd immunity, public and private art museums and galleries must make efforts to revive the art exhibitions and activities in the real time and space environments while follow cautiously the new SOP for health and safety of the visitors. At the same time continue to take advantage of online facilities, channels and social media as platforms to enhance the visual arts activities so that when people do not or cannot come to the museum, the museum will bring the art to the people as a strategy of reaching out to popularize visual arts in the community. Exhibitions in actual space and online can be held hand in hand to generate greater awareness, interest, understanding and love on art among people of different age groups, racial, faith and cultural backgrounds. It is anticipated that more promotional materials and publications on art will be in the forms of digital formats rather than the traditional hard copy outputs under the digital era.

●Suggestions to future AIAEs

At this juncture, I would like to propose that in between formal AIAEs in the future, online exhibition may also be held to maintain continuity of AIAE and fill the gap during the period when no member country has committed to host it, like the period from 2015-2020. We must treasure our AIAE which has been successfully held since 1985 without break (except 2015-2020). Since it has become a major art event in Asia we must continue to keep the flag flying. It will be a great pity and loss, and perhaps humiliation to let it lie idles like during the period from 2015-2020. Efforts must be made to keep the AIAE going annually or at least bi-annually.

Another point I would like to propose here is in the future the participating countries need not supply 500 copies of country catalogues to the hosting country due to the heavy cost of printing and shipment. Instead the participating countries need only to send a digital copy of their respective country catalogues to the hosting country. The hosting country can then combine or merge all the participating countries' digital copies in one single file and store it in a pen drive or CD-R. If the size is too big then all the countries' digital catalogues can be kept together in a custom designed case or box (something like a souvenir box) for free distribution or for sale at the exhibition venue. The hosting country is only required to distribute the main pen drive or box containing all the participating countries' digital catalogues to the participating countries at the end of the exhibition. This will definitely cost very little as compared to the costs of shipping 500 copies from participating country to the hosting country, and dozens of heavy sets of printed catalogues from host country to each participating country. I look forward to comments and suggestions from our member countries.

●感謝と祝辞

最後に、FAA (アジア美術家連盟) マレーシア委員会を代表し、第29回AIAEの開催を2018年に決定して下さったことと、過去数ヶ月の新型コロナウイルスの予測不能な進行状況のもとで第29回AIAE開催の決意を貫いて下さった勇敢さに対し、FAA日本委員会代表の宇田川宣人教授と委員の皆様に、感謝と敬意を表したいと思います!

同様に、第29回AIAEを共催して下さった九州芸文館と津留誠一館長に心から感謝いたします。第29回AIAEの日本での開催が実現できたのは、FAA日本委員会と九州芸文館の緊密な共同作業のおかげです。

第29回アジア国際美術展 (AIAE) の九州芸文館での開催おめでとうございます。

●Appreciations and congratulations

Finally let me on behalf of our FAA - Malaysia Committee convey our appreciation and salute to FAA - Japan Committee Chairman Prof. Norito Udagawa and Committee Members for their kind decision to host the 29th AIAE in 2021 and courageously upholding their determination to fulfill their commitment on hosting the 29th AIAE under the uncertain development of Covid -19 pandemic condition in the past months!

Likewise we would like to sincerely express our appreciation and gratitude to Kyushu Geibun - kan and Director Mr. Seiichi Tsuru for co-hosting the 29th AIAE. The close collaboration and cooperation rendered by FAA-Japan Committee and the Kyushu Geibun-kan has made possible for the 29th AIAE to be successfully held there.

Congratulations on the successful hosting of the 29th Asian International Art (AIAE) at the Kyushu Geibun-kan.